「桐蔭論叢」第 33 号 2016 年 2 月

〈法学部研究論文〉

ゴート語の語頭 h-音
―特に holen の語源について―

Über den Anlaut „h-“ im Gotischen — besonders über die Herkunft „holen“

鹿兒嶋 繁雄

桐蔭横浜大学法学部

（2015 年 9 月 28 日　受理）

Über den Ursprung des Wortes „holen“

Über das Wort „holen“ schweigen sowohl Kluge als auch der Duden. Nur eine einzige Ausnahme macht Oskar Schade. Er schreibt in seinem Wörterbuch, dass das Wort aus dem Gotischen „holon“ kommt. Aber das Problem besteht darin, dass das Wort „durch Betrug schädigen, schikanieren“ bedeutet.

Einen Inhalt, der Geldbeutel und Hin-und Zurückbewegung hat, zeigt ein lateinisches Wort „follis“ (Blasebalg).

Daher kommt die Bedeutung „von einem Ort, einer Stelle, an der sich etw. befindet, herbeibringen, herbeischaffen“.

Das englische Wort „fetch“, das dem Wort „holen“ gleicht, müsste eine direkte Verbindung zu dem Wort „folleo“ (wie ein Blasebalg auf und niedergehen) haben.

１．文法書の記述

印欧語比較文法に基づいた語頭 h- 音は、次のように記述する。

「ゴート語（AD 4C、以下 got. と省略）の h- は、インド・ヨーロッパ語（以下 idg. と省略）に遡ることができる。ゲルマン語（以下 germ. と省略）では最初には無声の摩擦音として現れた。母音の前の語頭で got. の h- はたぶん気息音としての価値しかない。単語の他の位置でも……」[注 1]

これは第一次子音推移のことで、ラテン語（以下 lat. と省略）「角」cornu ⇒英語（以下 engl. と省略）horn のように、語頭 k 音が germ.h- に対応する。この対応が idg. を germ. から区別し、さらに AD 5 世紀に始まった第二次子音推移によって高地ドイツ語（以下 nhd. と省略）を低地ドイツ語（以下 nnd. と省略）から区別した。

（例）「本」engl.book ⇒ nhd.Buch

印欧語比較文法は、これらの子音対応を金科玉条とし、これに反する現象に対しての説明はない。実際の子音対応は、印欧語比較文法の主張する lat.c ⇒ germ.h とは矛盾する対

KAGOSHIMA Shigeo : Professor, Toin Universität in Yokohama, Jura, 1614 Kurogane-cho, Aoba-ku, Yokohama, Japan 225-8503

応がある。

(1) lat.c- が got.h- に対応
lat.cor ⇒ got.hairto「心臓」
lat.centurio ⇒ got.hundafaths「百人隊長」

(2) lat.h- が got.h- に対応
lat.habere ⇒ got.haban「持つ」
lat.hic ⇒ got.his「この……」
lat.humiliare ⇒ got.hnaiwjan「低くする」
lat.hilarius ⇒ got.hlas「活気のある」

(3) lat.f- が got.h- に対応
lat.fenum ⇒ got.hawi「干草」
lat.fax ⇒ got.hais「松明」

(4) lat.h- の省略
lat.horror「1. 驚き、びっくり。2. 畏敬」
⇒ got.reiro「地震」＞ engl.roar「ほえる」

上記のように、実際の音対応は、lat.c ⇒ germ.h だけではない。音対応を遡り、germ. を含むヨーロッパ・アジアの言語に共通な祖先（祖語）が存在するはずだ、という空想から出発する青年文法家たちの「犯罪」は 200 年後の今日、再検討するべきである。

got. は、ギリシア・ラテン文化・文明に遠く及ばない野蛮人の言語で、遡っていけば一つの源泉から湧き出る川なのであるから、ゲルマン人は野蛮人ではない。文明人の一員だ、という主張は、劣等感から生まれた嘘だ。

この 200 年間の社会現象――特にナチの基本理念――が、この束縛から放たれていない原因の一端は、青年文法学派の学者たちにある。ナチの勝手な解釈に加担した彼らの責任は重大だ。

２．語源辞書の記述

印欧語比較文法の誤った方向性によって、語源辞典の内容は読者が納得する説明からほど遠い。ドイツ語の語源とは一切無関係な古語の羅列のみで説明を終えている。

「lat.c ⇒ germ.h」という枠組みから逸脱する単語に関しては、基礎語彙であるかに拘わらず項目から外している。

そもそも、語源辞書は、基礎語彙こそ記述の対象とすべきで、ただ一つの視点にとどまらず、虚心坦壊に単語を分析すべきだ。

例えば、nhd.holen「もってくる」は、「標準的な」語源辞書である Kluge, Duden には項目がない。唯一現代語の語源辞書で got. holōn と nhd.holen を関連付けているのは、旧東独の辞書である。しかし、明確な説明は出来ていない、と記している。(注2)

Grimm の弟子 Schade の辞書には次のような記述がある。

「halōn,holōn u.holĕn　古高ドイツ語（750–1050、以下 ahd. と省略）、中高ドイツ語（1050–1500、以下 mhd. と省略）holn は弱変化動詞で、「招聘する」、「こちらへ持って〈つれて〉くる」、「取りに行く」、「獲得する」、「あずかる」。古ザクセン語（830–840、以下 asachs. と省略）halōn、ザーターラント語（オルデンブルク西方地域）halja、現代フリースラント語 halje と helljen。これに関連するのは、スペイン語 hallar「見つける」、ポルトガル語 alar「…に翼をつける」、ラテン語 calāre「呼び集める」。ドイツ語辞典 13、234 を参照。」(注3)

この内容のない文章は、単語の形が似たものを集めただけだ。最後のスペイン語、ポルトガル語、ラテン語は nhd.holen とは全く関係がない。そして最初の halōn, holōn u. holĕn は got. で、この本来の意味が書いてあれば辞書としての機能をはたしてる。問題は、got. の holōn「金をゆすりとる」がどの言語のどんな単語から由来するかだ。

got. の語源辞書では次のように書かれている。

「got.hōlōn「（不当に・悪意から…の）悪口を言う、誹謗する」古英語（7C–12C ae.）hōlian、古アイスランド語（9C. ais.）hōl「自慢、大言壮語」、ae.hōl「誹謗」、ais. hǿla「称賛する」「いばる」、ae.hœlan「誹謗する」、ahd.huolen「騙す」は、ギリシア語（gr.）κηλεω「魅惑する」、lat.calvio「騙す」、calumnia「誹謗」.」(注4)

Holthausen は、got.hōlōn の意味から芋づる式に辿っていった結果を羅列するだけで、なぜ got.hōlōn が nhd.holen の意味になったのか、という説明はできていない。

「語源」の由来（Etymon）は、文法では「語幹語、幹語」であるが、ギリシア語の意味は「本当の」という意味である。印欧語比較文法のように、正確な音の対応のみで、しかもギリシア・ラテン語以前の音との一致を探し出そうとしても、そもそも方向が間違っているので、答えが見つかる可能性はない。

got. を取り巻く歴史的・地理的な環境を考えれば、got. はギリシア・ラテン文化・文明から圧倒的な影響を受けていることは歴史的な事実だ。AD300 ころゴート人は今のルーマニア・ウクライナにおり、ローマ帝国と対立。

(1) 民族的英雄であるアルミニウ（BC18–AD21）は青年時代ローマ軍に勤務。ローマ市民権と騎士身分を得、故郷エルベ川流域に帰り、「トイトブルクの森の戦い」（BC9）でローマ軍３軍団を撃破。以後ローマ勢力は、エルベ川の線から、ライン川の線に後退。

(2) AD341 ワレンティニュアヌス一世が発布した「蛮族との結婚の禁止」。この禁令は、ローマ人と蛮族との結婚の禁を犯すものは死刑に処するという厳罰主義によって、両者の結合を禁止したけれども、この政策は明らかに崩壊した。この禁令は一世代の中に行われなくなり……」(注5)

アルミニウスのようなエリートから、妻としてあるいは奴隷として、また傭兵としてローマ帝国と関わったゲルマン人の数は少なくないであろう。またラテン文明・文化に触れた彼らゲルマン人たちはラテン語を取り入れたり、真似たりしたであろうことは想像に難くない。

むしろ、単語の借用・模倣の中に got. の単語の語源を探ることこそより合理的だ。

3．混乱の原因

nhd.holen に音韻として遡れる単語は got. holōn が、「もってくる」と関わりがなさそうな「金をゆすりとる」という意味の単語として使っている、という点に混乱が生じた。

Das Evangelium nach Lukas 3, 14 (6)

• got.

frehun þan ina jah þai militondans qiþandans: jah weis hva taujaim? jah qaþ du im: ni mannanhun **holoþ**, ni mannanhun anamahtjaid jah waldaiþ annom izwaraim.

• ahd. (Tatian 13, 18)

Fragetun in thō thie kemphon inti quadun: uuaz tuon uuir? Intiquadin: niomannen ni **bliuuet** noh harm ni tuot inti sī giuagoiuuara lîbnara.

• lat.

Interrogabant eum et milites dicentes: quid faciemus et nos? Et ait illis: neminem **concutiatis** neque calumniam faciatis et contentiestotestipendiis vestris.

• gr.

ἐπηρώτων δέ αὐτόν καί οί στρατευόμενοι λέγοωτες. καί ἡμεῖς τί ποιήσωμεν; καί εἶπεν πρός αὐτους. μηδένα διασείσητε, μηδένα διασείσητε, μηδένα ***συκοφαντήσητε*** *καί ἀρκεῖσθε τοίς ὀψωνίοις ὑμών.*

• nhd

Da fragten ihn auch die Kriegsleute und sprachen: Was sollen denn wir tun? Und er sprach u ihnen: **Tut** niemand **Gewalt** noch Unrecht und lasset euch genügen an eurem Solde!

• engl.

Some soldiers also asked him, “What about us? What are we to do?” He said to them, “Don’t **take money** from anyone by

force or accuse anyone falsely. Be content with your pay."

・新共同訳

兵士も、「このわたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「だれからも**金をゆすり取ったり**、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ」と言った。

got.holon は gr. 原典の *συκοφαντήσητε* ＜ *συκοφαντέω* の仮定法・アオリスト・２人称複数「間違った情報でお金をゆすり取る（to extort money by false information）」(注7) で、1. prosecute vexatiously blackmail「腹立たしくゆする（ゆすって得たお金）」 2. criticize in a pettifogging way「卑怯なやり方を非難する」(注8)、聖書では、単なる「脅し」だけではなく、「恐喝より得たお金」と二つの意味を同時にもった単語だ。lat.concutiatis ＜ concutio「1. 打ち合わせる。2. 振り動かす」、ahd.Tatian では bliuuan（＜ engl.blow「（こぶし・平手・こん棒などによる）強打、一撃」）(注9) で、「脅し」の意味だけ表現している。

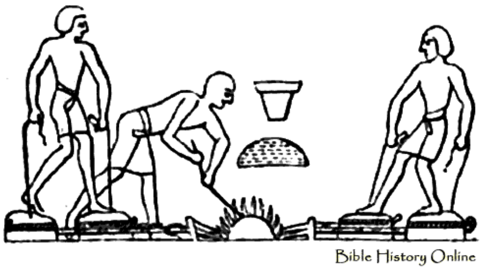
４．核としてのラテン語

何故、語形は nhd.holen なのに、意味は「金をゆすり取る」なのかという矛盾を説明するには、「持ってくる」と「金をゆすり取る」の意味をもつ単語を探すべきであろう。

got.holon「中傷する、だまし取る」の h- は lat.f- と対応する。（上記１、（注３）を参照）

lat.follis という単語がある。意味は「1. 革袋、財布。2. 空気をつめた大きな革のボール（遊戯用）。3. ふいご。4. 陰のう（金玉の袋）」だ。lat.follis の動詞は folleō「ふいごのように動く」だ。(注10)

「金をゆすり取る」は lat.follis の「財布」からゴート人が創作した単語であろう。さらに「持ってくる」の意味は「ふいご」の上下の反復運動をみたゴート人が思いついた単語なのではないか。(注11)



上図のように、革でできた円形の踏み台を交互の踏むことで、空気を炎に吹き付ける。意味として、革袋⇒財布⇒ボール⇒ふいご⇒陰のう、という展開の中で、got. は「財布」から、「金をゆすりとる」、「ふいご」の左右にいる人があたかも、右から左に往復しているように見えるところから、「往復運動」という意味を創作したのではないか。

ahd.halon は、すでに nhd. の意味の萌芽である「呼び寄せる」を意味している。

・ahd.Tatian 125,2

Zi thero zîti thero goumu santa sine scala zî **halonne** thie gil ȧ dotun zi thero brûtloufti, inti sie ni uuoltun quemen.

・lat.L14,16

Hora cænae Mt.22,3 misit servossuos **vocare** invitatos adnuptias,et nolebant venire.

・nhd.

Und er sandte seine Knechte aus, dass sie die Gäste zur Hochzeit **riefen**; und sie wollten nicht kommen.

・新共同訳

王は家来たちを送り、婚宴に招いておいた人々を**呼ばせた**が、来ようとしなかった。

西ヨーロッパの現代語を並列した辞書では、nhd.holen と engl.fetch は同価と書かれている。いわゆるラテン語系のことばとゲルマン語系のことばは異なった系統の単語を用いている。仏語：aller chercher「探しに行く」、

rapporter「もとの場所へ返す」、西語：ir a buscar「探しに行く」、buscar「探す」、伊語：andare prendere「取りにいく」、prendere「取る、持っていく」(注12)。語源辞書で、engl.fetch は多分、古英語 fećć(e)an（nhd fassen「掴む」）であろう、と書かれている。(注13)

nhd.holen、engl.fetch は、lat.folleō「ふいごのように動く」⇒「同じことを繰り返す」からゴート人が創作した「持ってくる」の意味を保持しているのではないか。

【注】

(1) Braune. W.: Gotische Grammatik §61, 62 (Tübingen, 1973)

Das got.h ist auf idg.k zurückzuführen.Im Germ. ergab sich zunächst stimmloser Spirant.Im Wortanlaut vor Vokal hat das h im Got. wohl nur den Wert eines Hauchlautes. In allen anderen Stellungen ist noch die

Aussprache als Spirant (mit a-Färbung = nhd.ach-Laut) anzusetzen, also im Anlaut vor Konsonaten: hl, hl, hr, (hw), im Inlaut zwischen Vokalen (hier aber wohl ganz schwachartikuliert, vor und nach Konsonant undim Auslaut.

(2) Kluge: Deutsches Etymologisches Wörterbuch (Berlin, 1971), Duden: Herunftswörterbuch (Mannhein, 1968), Etyologisches Wörterbuch des Deutschen (Berlin, 1989) S.702

(3) Schade, O.: Altdeutches Wörterbuch S.366 (Hildesheim, 2000)

halōn,holōn u.holĕn ahd., mhd.holn schw V. *berufen; herbeibringen, holen; erwerben. an sich nehmen*

As. halōn,afris.halja saterld. halja nfris. halje u. helljen. Davon span.hallar, port. alar, frz.haler *ziehen*

DzWb.1 3、234.Vgl. alat.calāre

(4) Gotisches Etymologisches Wörterbuch: Holhausen, F. (Berlin, 1943) S.48

(5) 「ゲルマンとローマ」長友 栄三郎（1976、東京）p.5–6

(6) Die Gotisch Bibel: Streitberg, W: (Heidelberg, 1971)

Tatian: Sievers, E. (Padeborn, 1966)

Novum Testametum Latine (Stuttgart, 1971)

(7) The analytical Greek Lexicon (London) p.381

(8) Liddell & Scott: Greek ´ -English Lexicon (Oxford, 1996) p.1671

(9) 語源辞書の blow の項で語源は不明と記述。しかし語源として「恐喝」の意味の ahd. bliuuan がこれに当て嵌まるであろう。cf. The Oxford Dictionary of English Etyology (Oxford 1966) p.102

(10) 「古典ラテン語辞典」國原吉之助（東京、2005）p.290

(11) Bible history online (https://www.google.co.jp/search?q=picture+of+bellows+in+ancient+egypt&espv=2&biw=1600&bin=799&tbm=isch&imgil=51kJCeqcWDdd-M%253A%253B55AKbingRAn6wkM)

(12) Europa Wörterbuch (Limassol, 1999) p.216

(13) *ibid.* (9)